

教務部 平成27年度重点目標

重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない  達成度 [4]75～100% (ほとんど) [3]50～74% (まあまあ) [2]25～49% (もうすこし) [1]0～24% (わずか)	項目31	<目標> ①・本校の教育課程の狙いを達成するために、授業・考査・評価が円滑に行われるように、ハード面・ソフト面の両面からの授業環境のサポート整備・時間割編成・考査の設定実施を進めていく。 ・SGHアソシエイト校としての取り組みを教育課程の中で適正に位置づけ、今後の本校のSGH構想の進展に資する。 ・定量的アウトカムは、学校全体の共通目標となる学力指標(模試、大学進学実績等)の過年度比較における向上とする。 <計画> ①-1 教育課程を実践するうえで、より効果的な時間割・授業の実施環境の整備・スムーズな定期考査の実施・成績評価の実施ができるように、担当者が連携し、計画的に、早め早めに対応していく。 ①-2 成績、出欠などの各種データ・情報を効率的に管理、共有できる教育支援システムの整備を一層進める。 また、成績会議などにおいて、到達度評価の検討を引き続き行い、教科会議などをより学力向上に繋げる。 ①-3 SGHアソシエイトの取り組みについて、教務的なサポート体制を構築していく。
	項目33	<目標> ②・新しい教育環境に対応した情報環境・教務上の連絡体制・学習環境整備・成績処理などの教務事務を進めるとともに、ITC機器を中心とした新しい教育支援システムの研究・活用をより一層進める。 ・SGHアソシエイトに対応した英語による教務事務の実施を図る。 <計画> ②-1 より一層新しい校舎の特徴を生かした時間割・学校設備などの進行管理を行う。 ②-2 教務情報システムの精査により、適切なデータ管理・データ出力・各種帳票などが間違いなくできるように情報の素早い処理と確認を丁寧に行い、進めていく。また、SGHアソシエイト・アウトカムに対応する英文での各種文書の作成・発行をスムーズに行い、それに習熟する人材を育成していく。 ②-3 各種の校務関連文書、校務関連備品の整理を行い、新しい教育環境・電子黒板などの電子教材を充実させ、教員の授業準備・授業研究環境を整える。
	項目35	<目標> ③・式典・芸能教室・教育実習・教科書採択事務・単位追認試験など各種の教務上の実務において、これまでの成果を踏まえ、その内容の再検討を行い、充実させていく。 ・外部の教育リソースとの連携をより一層、スムーズにして、その成果を全体で共有する。 <計画> ③-1 これまでの各種教務実務の成果を踏まえ、計画・準備・実施・発表・事後まとめ、全体共有の流れのサイクルをより一層、明確にするように取り組んでいく。 ③-2 教育実習や行事などにおいては、外部組織との十分な連携が欠かせない。目標・方法などを外部組織と十分に共有し、さらに検証を進めていく。

		項目31		項目33		項目35					
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度				
部署コード	平均	3.8	3.2	3.3	2.9	3.3	3.1				
2	31	4	3	3	3	4	3				
7	31	#	#	#	#	#	#				
9	31	#	#	#	#	#	#				
11	31	3	3	3	3	3	3				
12	31	#	#	#	#	#	#				
29	31	4	4	4	3	4	4				
30	31	4	3	3	3	3	3				
39	31	4	4	4	3	3	3				
44	31	4	3	4	3	3	3				
46	31	#	#	#	#	#	#				
56	31	#	#	#	#	#	#				
59	31	3	2	3	2	3	2				
60	31	4	3	2	3	3	3				
72	31	4	4	4	3	4	4				

<取組状況、次年度への課題など>

① この項目については、定量的な達成度は昨年は、達成度2.9から3.2へと若干の進捗があった。各教科での取り組みが、アクティブラーニングやPCを効果的に導入した授業に大きく変化し、より効果的な授業を行う工夫などの取り組みが全校的に行われるようになったのは、大きな成果である。考査時間割の作成、実施、評価なども比較的スムーズに行われた。フランス語や理科などにおいて、7時間目の授業も行った。時間割などはこうした条件に対応できるように作成した。しかし、各教科の評価、評定について、科目間のアンバランスもあり、極端に低い科目もあった。この評価とそのフィードバックを指導に生かし、パフォーマンスを上げていく点をさらに教員全体で共有し、検討を続けていく。

② この項目でも、昨年度と比較をして、達成度2.7から2.9へと若干の達成度の進捗があった。教務システム「スコール」に関して、本格稼働の3年目でだいぶデータの整理も進んで来た。今年は特に大きな調査書作成においての課題はなく、作業ができた点も進歩である。定量的な目標である教務事務上のミスは、昨年度と比較して大きく減少した点もよかった。SGHアソシエイト校として、海外校との提携が進み、留学する生徒が増えるなどの目に見える変化、進捗が表れている。英文の成績証明書や推薦書などの作成もシステムとしてうまくいくようになってきているのも大きな変化・進歩といえることができる。

③ この項目では、定量的に昨年度よりとほぼ同じである。校外学習に関して、歴史文化研究旅行については、複数学年による学年横断的な形での事前・事後研修やプレゼン、発表などが定着し、校外学習の教育的な効果をより一層確認できるようになった。また、イングリッシュキャンプも2年目を迎え、定着してきた。また、校外学習において、外部組織との連携はまだまだ不十分なところもあるが、昨年度に、会部機関との連携が単年度ごとだったのを複数年度で一緒に取り組めるように制度改定を行ったことで、より長期的な視点で、外部組織との協働による取り組みができるようになり、昨年度の反省が生かせる取組を進めている。これに今後のより一層の校外学習の進捗が望める。

## 生徒部 平成27年度重点目標

重要度  
[4]大変に重要  
[3]やや重要  
[2]あまり重要でない  
[1]重要でない

達成度  
[4]75～100%  
(ほとんど)  
[3]50～74%  
(まあまあ)  
[2]25～49%  
(もうすこし)  
[1]0～24%  
(わずか)

<b>項目31</b>	<p>&lt;目標&gt; ① 生活指導の基本である「7つのルール」の指導の徹底を図る。</p> <p>&lt;計画&gt; ① 月間目標等の計画立案、実行、検証、改善のサイクルを作り、学期毎に取り組む。「7つのルール」の指導(「挨拶指導」「校内美化指導」「遅刻指導」等)を通して、基本的な生活習慣の基礎をしっかりと身につけさせる。また、大妻コタカ先生の教えである「日常五つの心」を心がけられるような指導を行っていく。</p>
<b>項目33</b>	<p>&lt;目標&gt; ② 本校の道徳教育に「考え、議論する道徳」へと質的に変革する部分を盛り込み、これからの多様化する社会に向かって、生徒自身が自立した人間としてよりよく生きようとする意志や能力を育てていく。</p> <p>&lt;計画&gt; ② 体験活動や講話を効果的に配置する。道徳シラバスの内容の改訂を図り、「相互理解、寛容」「社会参画、公共の精神」「国際理解、国際貢献」等の分野を加えると共に、道徳の教材を通じてアクティブラーニングの授業が行えるように準備する。 また、いじめの未然防止のための取り組み(スクール法教育の内容の充実、アンケートによる生徒の生活状況の把握等)を実践出来るように整備する。</p>
<b>項目35</b>	<p>&lt;目標&gt; ③ 健康教育の充実を図る。</p> <p>&lt;計画&gt; ③ 生徒が健康的な生活を送るための情報を発信し、生徒の健康管理への意識を高めていく。保健運営委員会等で情報の共有化を図り、生徒のさまざまな課題に対応していく。</p>
<b>項目37</b>	<p>&lt;目標&gt; ④ 生徒会の組織としての連携を図ることを通して、全校生徒の「生きる力」を育てていく。</p> <p>&lt;計画&gt; ④ 生徒会執行部や各委員会の活動の連携を図れるような組織作りを行い、学校行事や生徒会活動を活発なものにしていく。</p>

		項目31		項目33		項目35		項目37					
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度				
部署コード/平均		3.9	3.0	3.9	3.0	3.9	3.3	3.9	3.2				
4	32	4	3	4	3	4	3	4	3				
5	32	4	3	4	3	4	4	4	3				
15	32	4	2	4	2	4	3	4	3				
20	32	3	3	3	3	4	3	3	3				
25	32	4	2	4	3	4	2	3	2				
32	32	4	4	4	3	4	4	4	3				
36	32	4	3	4	4	4	4	4	3				
38	32	4	3	4	3	4	3	4	4				
41	32	4	2	4	2	4	3	4	4				
43	32	4	3	4	3	4	3	4	4				
52	32	4	3	4	4	4	4	4	3				
53	32	4	4	4	3	4	3	4	3				
57	32	4	4	4	3	4	4	4	4				
58	32	4	3	4	3	4	3	4	4				
61	32	4	4	4	3	4	3	4	3				
63	32	4	2	4	3	4	4	4	3				
64	32	4	3	4	3	3	3	4	3				

<取組状況、次年度への課題など>

【項目31について】「校内美化指導」については、生徒の美化意識が上がり清掃状況もよくなっている。「廊下での挨拶」はよくなっているが、美しい挨拶の仕方や場面に応じた挨拶がまだ出来ていない点で、よりきめ細かな指導をしていく必要がある。遅刻指導については学年によってうまく出来ている場合と苦労している場合があるので、28年度は学年団と生徒部がより連携して指導していく方法を考え実践していきたい。

【項目33について】「いじめ対応」の現状については道徳における弁護士への授業、個人面談、アンケート等で学校全体として早期対応が出来ており特に問題はない。文科省から提示された道徳への「国際理解教育」導入については、「地球規模の課題」をテーマにした教材を使用しAL型授業を行うことで、「考え、議論する道徳」に対応する体制を作ることが出来た。28年度は学校行事と道徳・LHRを関連づけながら、「国際理解教育」や「考え、議論する道徳」が実施出来るように道徳シラバスを見直していく。

【項目35について】健康教育に関しては、管理職・学年団・保健室・カウンセラーとの情報共有や連携がよくとれており、個々の生徒への対応が丁寧になってきている。また、今年度は「保健だより」をHP掲載し情報共有を図り、保護者への健康教育が行えたことも成果である。

【項目37について】大妻4校の生徒会で情報を共有し合ったことは大きな成果である。また、執行部から各委員会への働きかけを行い、挨拶運動やエレベータールールの徹底、登下校マナー改善に関する活動をきめ細かく行うことが出来た。各委員会も概ねしっかりと活動が出来た。28年度は、執行部を中心に「登下校マナーの改善」についての更なる取り組みの実践を期待している。

進路部 平成27年度重点目標

重要度  
[4]大変に重要  
[3]やや重要  
[2]あまり重要でない  
[1]重要でない

達成度  
[4]75～100%  
(ほとんど)  
[3]50～74%  
(まあまあ)  
[2]25～49%  
(もうすこし)  
[1]0～24%  
(わずか)

項目31	<p>&lt;目標&gt; ① 中学1年から高校3年の6年間にわたる一貫した進路指導体制の確立</p> <p>&lt;計画&gt; ① 6年間にわたる一貫した進路指導体制の形成には情報の共有が不可欠であるが、各学年の取り組みなどについて、情報が共有されたことによって、中学では朝学習の「妻中義塾」、高校では、受験対応の講習や放課後延長学習が継続的に実施されるようになってきている。 また、6年間にわたる一貫した進路指導体制の形成という点では、教員対象の進学指導ガイダンスや、進路情報の共有化として、進路部や各学年発行の「進路通信」などの充実と共有を進めていく。</p>
項目33	<p>&lt;目標&gt; ② 「学習シラバス」(中学版)「学習の手引き」(高校版)の検討と改訂</p> <p>&lt;計画&gt; ② 「学習の手引き」は、平成27年度初めて高校1年生に配布するが、ガイダンス等で活用する中で、今後に向け改善すべき点を洗い出し、改善に向け改訂を加えていく。また、「学習シラバス」「学習の手引き」とともに、平成28年から開設されるグローバルリーダーズクラスに対応した部分について検討し、追加する。</p>
項目35	<p>&lt;目標&gt; ③ 「模試」の徹底活用による学力向上</p> <p>&lt;計画&gt; ③ 「模試の成績・結果」を学年・教科で分析・検討し、生徒の学力状況を把握するとともに、課題を明確にし、さらなる学力向上に結びつけられるように取り組む。学力検証のシステムを継続し、検証の学内共有を徹底させる。生徒に対する指導としては、模試を受験する際に「目標設定」「受験」「自己採点」「結果返却」「課題把握」のサイクルを徹底させる。</p>
項目37	<p>&lt;目標&gt;④ 「大学入試改革」に関する研究と対策の推進</p> <p>&lt;計画&gt;④ 中1生が高2、高3段階で受験することになる新テスト(仮称)については、関連した研修会などに多くの教員が参加して情報を収集するとともに、校内で情報の共有化をはかり、教科・学年が連携して対応をはかっていく。情報の収集と校内への伝達・共有に努める。</p>
項目39	<p>&lt;目標&gt;⑤ 進学実績の向上</p> <p>&lt;計画&gt;⑤ 目標達成のために以下の取り組みを実施する。 ・受験生の受験パターンを集約し、それに合わせて講習や個別指導を展開する。 ・合格者数を伸ばしたい大学については、入試説明会を開催して、卒業生の講演を企画するなどして生徒の志望や受験動機を伸ばす取り組みを行う。</p>
項目41	<p>&lt;目標&gt; ⑥ グローバルリーダーズクラスにおける進路指導方法の研究と決定</p> <p>&lt;計画&gt; ⑥ 次年度中1、高1で開設されるグローバルリーダーズクラスにおける進路指導について、その方法等を研究検討・決定していく。特に高校段階では、大学進学への指導方針について、情報の共有と全教員の共通理解をはかることに留意する。</p>

部署コード／平均	項目31		項目33		項目35		項目37		項目39		項目41		
	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	
1	33	4	3	4	3	4	3	4	4	4	3	4	2
8	33	4	3	3	3	4	3	3	2	4	3	3	2
10	33	4	3	4	2	4	3	4	2	4	2	#	#
14	33	4	3	4	3	4	3	3	2	4	3	3	3
17	33	4	3	3	3	4	3	4	3	4	3	4	2
23	33	4	3	4	4	4	2	4	2	4	2	4	2
26	33	4	3	3	3	3	4	3	2	4	3	3	3
34	33	4	2	3	2	3	2	4	2	4	2	3	2
37	33	#	#	#	#	#	#	4	3	4	3	4	3
51	33	4	2	2	2	3	2	4	1	4	2	3	1
67	33	4	1	3	2	3	1	4	3	4	2	4	1

<取組状況、次年度への課題など>

①「中学1年から高校3年の6年間にわたる一貫した進路指導体制の確立」に関しては、各学年の進路目標や取り組み(朝学習や放課後延長学習等)成績などの情報が共有されたことによって、教員間に6年一貫の意識が高まってきた。ただし、さらに教員対象の進学指導ガイダンスや大学新テストに関する研修などで、教員の情報の共有化をはかり、進路指導体制を整えていきたい。また、「進路サポート」の活用などについても情報の共有が必要である。

②「学習シラバス」(中学版)「学習の手引き」(高校版)の検討と改訂については、「学習の手引き」は、今年度初めて高校1年生に配布した。平成28年度に向けては、現在編集中であるが、GLCに対応した内容が加わるため、引き続き内容の検討が必要である。

③「模試」の徹底活用による学力向上については、模試検証を行うことで、各学年の課題などが明確になり、それを踏まえての学力向上の取り組みも実施されてきている。今後はさらに、各教科、各学年で課題を洗い出し、学力向上の取り組みを充実させていきたい。

④「大学入試改革」に関する研究と対策の推進については、「大学入試改革」に関しての教員研修への参加を促すとともに、情報の共有化をすすめる、各段階で保護者会などで説明をするという事は実施された。今後は、各教科・学年で関心を高めるとともに、対応について、より積極的に取り組んでいく必要がある。

⑤「進学実績の向上」について、講習や個別指導に関しては、年々向上がはかられている。大学別・志望分野別の入試説明会、進路ガイダンス等については、今後さらに検討し、より充実した形にしていく必要がある。また、さらなる進学実績の向上に必要な取り組みを洗い出し、取り組んでいく必要がある。

⑥「グローバルリーダーズクラス(GLC)における進路指導方法の研究と決定」について、GLCの高校段階における大学進学指導方針については、決定したが、具体的な進路指導の方法などについては、取り組みに至っていない。今後はSGUを中心に、GLC生徒が中心となって志望することになる大

入試広報部 平成27年度重点目標

重要度  
[4]大変に重要  
[3]やや重要  
[2]あまり重要でない  
[1]重要でない

達成度  
[4]75～100%  
(ほとんど)  
[3]50～74%  
(まあまあ)  
[2]25～49%  
(もうすこし)  
[1]0～24%  
(わずか)

項目31	<p>&lt;目標&gt; ① 平成27年度SGHアソシエイト校としての認定を受け、来年度入試より導入する「グローバル リーダーズコース」「グローバル入試」「海外帰国生入試1回増設」という実践を、受験生・保護者・受験教育界に広く正しく伝え、「大妻中野におけるその導入の意義と目標」の認知度を高める。</p> <p>&lt;計画&gt; ① 「グローバル社会で活躍する生徒の育成」に関する広範囲の研修への積極的に参加し、社会動向の変化発展に対応できる力を養う。 ・効率的な塾訪問・受験教育関係者との情報交換・共有を計画する。 ・受験生対象行事・入試システムの内容研究に努める。 ・Web利用の広報活動研究に努める。</p>
項目33	<p>&lt;目標&gt; ② 「近未来社会でグローバルに活躍する生徒の育成」を教育目標とする上で、目標に沿った意識を持つ受験生に志願してほしい。それを考えた上で入試問題内容・入試システムの再構築を研究する。</p> <p>&lt;計画&gt; ② 長期的視野に立ち、「教育目標」に沿った、入試問題研究、広報活動研究、学内での情報共有システム研究を行う。 ・国内生対象のコア選抜入試・アドバンス選抜入試の充実ならびに、入学後の教育活動をあらためて正しく広報する。</p>
項目35	<p>&lt;目標&gt; ③ 海外帰国生の志願者増・入学者増(SGH構想調書に沿って)を目標を定め、海外帰国生への広報活動を再検証し、実践する。</p> <p>&lt;計画&gt; ③ 海外帰国生対象の説明会の充実(海外開催も含む)が①でのHP・Facebook・ブログの活用の活性化と新たなWeb広告媒介の研究する。</p>
項目37	<p>&lt;目標&gt; ④ Web利用の広報活動に於いて、効果の大きな利用方法を研究・開拓、実施する。</p> <p>&lt;計画&gt; ④ Web活用広報の技術研修を継続的に行い、「本校の教育実践」を多方面から広報できる方法を確立実践する。</p>

		項目31		項目33		項目35		項目37					
部署コード/平均		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度				
3	34	4	4	4	3	4	4	4	4				
16	34	3	3	3	3	3	2	3	2				
18	34	3	3	3	3	3	3	3	3				
21	34	#	#	#	#	#	#	3	3				
22	34	4	3	4	2	4	2	4	#				
27	34	4	1	4	1	2	1	4	1				
28	34	4	4	4	4	4	3	4	2				
31	34	#	#	#	#	#	#	4	3				
33	34	4	3	3	3	3	3	4	3				
40	34	4	3	3	3	3	2	3	1				
42	34	4	3	3	3	2	2	3	2				
45	34	4	4	4	3	4	4	3	3				
47	34	4	4	4	3	3	3	4	3				
55	34	#	#	#	#	#	#	4	4				
65	34	4	3	3	3	4	3	3	2				
68	34	4	3	3	2	3	2	3	2				

<取組状況、次年度への課題など>

- SGHアソシエイト校としての特徴を、説明会、webサイト、SNS等を最大限利用して情報発信することに成功しただけでなく、受験業界、受験生、保護者にその教育内容と本校の教育指針を理解してもらうことができたと考え。(入試結果に示される)
- その理解を入試出願へと導くことにも成功したと考える。

コア選抜、アドバンス選抜の教育プログラムをより具体的に発信することに関しては、目標に達していない。SGHプログラム、大学入試改革に伴う教育改革への対応について、他部署(特に進路部、教務部)と連携し、より情報発信に工夫を要する。海外帰国生入試回の1回増は、本校グローバル教育の漸進にとって非常に良い結果をもたらした。来年度実施予定の海外での入試実施とグローバル入試(英語入試)のバージョンアップを図り、SGH構想調書にも記した、「海外帰国生が全体の2割在籍」を目指したい。広報活動全般に渡り、教職員一同の前向きで丁寧な取り組みが実を結んだことを強く感じた1年であった。今後もこの気持ちを忘れることなく前進する必要がある。改革の連続性が求められる時代であることを忘れず、どの先に何が待っているかを引き続き検証し、校内広報に活かしたい。

## 企画室 平成27年度重点目標

分掌・教科・学年の枠を超えて活動できるという企画室の特色をさらに色濃く打ち出していくとともに、各分掌への提案と要請を適宜発信し、協働して全体のベクトルを統一していく。

### 項目31

<目標>  
① 生徒が希望進路をかなえられるような仕組みを企画し、実施する。  
<計画>  
① 3Fエレベーターホールに「進路パネル」を設置し、早慶上智GMARCHなどの大学紹介や模試偏差値、合格した先輩たちのコメントなどを掲示し、進路に向けての意識向上をうながす。  
進路部と連携を取りながら出願指導の戦略会議も1学期の早いうちに実施し、進路実績向上をめざす。  
ブレインエクササイズやチャレンジバンクテストへの真摯な取り組みが自分の進路実現に向けての確実な前進であるということを周知徹底し、生徒の意識向上をめざす。

### 項目33

<目標>  
② 教員の授業力の向上を目的とした、入試問題研究会や授業見学をより効果的に実施する  
<計画>  
② 電子黒板やタブレットなどのICT導入にともない、21世紀型のアクティブラーニング授業の開発や研究授業の実施を企画する。また、全教員が受験指導をできるように、各教科で入試問題研究を行うなど教科指導力向上のための研修会を企画・実施する。

### 項目35

<目標>  
③ 「実践的英語力」の養成が効果的にできるような環境を作り、支援する。  
<計画>  
③ 外国語科の後方支援として、ワンミニッツイングリッシュと外国語発表会を継続して実施する。さらに、新しい取り組みとして放課後の「ネイティブルーム(仮称)」を設置する。

### 項目37

<目標>  
④ 校務分掌・学年・その他のすべての部署がスムーズに連携を図れるような環境を整える。  
<計画>  
④ 企画室を「分掌・学年・その他の潤滑油的な役割を果たす分掌」として位置づけ、各分掌や各学年から集約した意見を当該部署に提案・要請することで、学校全体で統一感のある教育活動を行えるようにする。また、全教員による丁寧な対面教育指導を行うために、「生徒を第一に考えた教育活動を展開する」を全教員の共通認識として周知徹底する。

		項目31		項目33		項目35		項目37					
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度				
部署コード/平均		3.6	3.0	4.0	2.6	3.8	2.6	3.8	2.7				
19	35	3	3	4	2	4	2	#	#				
49	35	4	2	4	2	4	3	3	#				
62	35	4	4	4	4	4	4	4	4				
69	35	4	4	4	3	4	2	4	2				
70	35	3	2	4	2	3	2	4	2				

<取組状況、次年度への課題など>  
各種取組について。進路パネルやNative Roomなど、企画だけでまったく実施できなかったものについては残念であった。次年度は全体的な計画を年度当初、むしろ年度が始まる前に策定したい。CBTに関しては実施が定着してきたので、管轄を進路部に移行しつつ、日程決めや全体管理などでサポートをしていく。Native Roomはできなかったが、Mr. NixonのOne Minute EnglishとWeekly Phraseは全体に良い効果をもたらしていると考えるので、継続的に実施をする。もっと全校に周知できるような工夫もするべきであろう。  
新年度より4学年がタブレットを持つことになるので、Brain Exerciseと妻中検定をタブレットで実施できるような準備をしていきたい。2020年の大学入試改革に関係する学年(中1・中2)とそうではない学年(中3以上)で、求められることは多少違ってくるが、企画室の立ち上げ当初の「地頭を良くする」というコンセプトで、生徒たちにはさまざまなしかけをしていくべきである。各分掌へのアプローチに関してはあまりできなかったが、学校全体がいろいろなことをもう少し柔軟に考えることができるように働きかけを継続していきたい。